

## 研究主題 書字文化を大切にし、文字感覚を高める書写指導

### テーマ 学習過程を重視した指導方法の改善

#### I 団体について

##### 【団体の概要】

学習指導要領に示された目標を踏まえ、書写の基礎・基本的な知識及び技能や主体的に学習に取り組む態度の育成を図る指導方法の工夫について、研修会を通して研究・実践交流をしている。

##### 【団体の取組み】

年間の主な取組みは次のとおりである。

- ① 6月 定期総会/研修会 書き初め撰文、書き初め執筆者選定  
(書き初め紙上展の課題文字を決定し、執筆者を選定する)
- ② 7月 研修会 書き初め文字基準確認  
(執筆者が試作した文字基準について検討する)
- ③ 8月 研修会 書き初め文字基準完成  
(執筆者による文字基準を再度検討し、完成させる)
- ④ 9月 研修会 研究発表会に向けた指導案検討(1)  
(授業担当者が提案した学習指導案について検討する)
- ⑤ 10月 研修会 研究発表会に向けた指導案検討(2)  
(授業担当者が提案した学習指導案について検討する)
- ⑥ 11月 研修会 書き初め指導法の研修(1)  
(書き初めの執筆者による文字基準の要点等解説を聞き、指導法を学ぶ) 右上に続く▶

##### ⑦ 11月 研究発表会/研修会 書き初め指導法の研修(2)

(公開授業(令和4年度は、授業は非公開とし動画及び成果物による発表とした)と研究協議会/書き初めの執筆者による文字基準の要点等解説を聞き、指導法を学ぶ)

##### ⑧ 2月 研修会 書き初め紙上展の審査

(書き初め指導法研修会参加者から審査会の参加者を募り、審査しながら審査法を学ぶ)

##### ⑨ 3月 書き初め展授賞式

その他の活動として、年度末に研究紀要の発行・配布を行っている。

#### II 研究について(1)

##### 【研究の目的】

生徒の主体的に学習に取り組む態度を養い、書写の知識・技能を高めるために、主体的・対話的で深い学び、個別最適な学びの成就を図る。

##### 【研究の方法】

- ① 他者とのコミュニケーションを前提とし、学習の過程及び成果を共有することで、読みやすい字を書く意識及び書写の知識・技能を向上させる。
- ② ICTを活用し自分の書いた文字と文字基準を比較することで自己の課題を捉えさせ、具体的にその改善に向けて取り組ませる。

### Ⅲ 研究について(2)

#### 【研究の内容】

- ①書き初めの課題文字について、概略と留意点や筆使いなどを知る。
- ②試書したものを一人1台タブレット端末で撮影し、文字基準と並べて比較することにより「良かったところ」及び「課題」を明確にし、タブレット端末に配布されたワークシートに記入する。
- ③各自のタブレット端末で筆使い動画を見ながら課題解決を目指して練習し、最も課題解決できた一枚をタブレット端末で撮影してワークシートに「良くなったところ」「課題・直し方」を記入する。タブレット端末上で「提出」する。
- ④ツインミーティングを行い、③の内容を共有し合う。
- ⑤2～3文字ずつ、全ての字についてこの学習を繰り返す。



↑留意点を伝える様子



同じ生徒のワークシート

↑最初 ↓最後



↑ツインミーティングの様子

### Ⅳ 研究の成果と課題 (まとめ)

#### 【研究の成果】

- ・ICTの活用により「自分のペースで手元のタブレット端末により筆使い動画を何度でも見て確認できる」「自分が書いたものと文字基準をスクリーン上で並べて客観的に見ることで課題が明確になりやすい」「書いたものをワークシートに貼り付けて、振り返りとともに提出できる」といった利点が見られた。
- ・ツインミーティングを実施し、良い点や改善点を伝え合うことで、書写の用語を自分の語彙とすることができていた。改善方法をアドバイスし合いながら学びを深めている様子も見られた。



#### 【研究の課題】

- ・タブレット端末で他の生徒のワークシートを鑑賞することもできるので、効果的に活用し学び合い活動を行う。

#### <連絡先>

団体名		東京都中学校書写研究会
代表者	所属	東村山市立東村山第四中学校
	職氏名	校長 齋藤 健一
	連絡先	042-391-9114
事務局	所属	台東区立駒形中学校
	職氏名	指導教諭 石津 あや
	連絡先	03-3844-2089

## 研究のテーマ 中学校学習指導要領に則した指導の改善

### I 団体の概要

- 都内公立中学校の数学科教員をもって構成する数学教育研究会
  - 中学校数学教育の向上を図ることを目的とし、会長のもと会員相互の自主と協調のもとに、以下の5部会・8委員会を組織し、数学教育全般にわたる研究活動を実施
- 5部会 庶務部・研究部・調査部・広報部・会計部  
8委員会 研究部内に、数式委員会・教育課程委員会・指導法委員会  
 図形委員会・確率統計委員会・評価委員会・導入法委員会・関数委員会

### II 主な年間活動

- 運営に関する会（総会）・講演会の開催  
 令和4年5月14日(土)  
 於 練馬区立開進第二中学校 セミナーハウス（松山館）  
 ・指導改善に向けた大学教授等による講演会  
 演題 「中学校数学科において  
 数学的な見方・考え方を働かせて  
 活用し探究する数学の学習指導」  
 講師 埼玉大学教育学部 准教授 松崎 昭雄 先生
- 数学指導技術向上研修会の開催  
 【本研究会と東京都教職員研修センターが連携研修として開催】  
 令和4年8月19日(金) 於 北区立王子桜中学校  
 ・主に若手・中堅の都内数学科教員を対象とした研修会の企画・運営
- 研究大会への参加  
 ・第104回全国算数・数学教育研究（島根）大会  
 令和4年8月5日(金) 【教育課程委員会・関数委員会】  
 ・第77回関東甲信静数学教育研究山梨大会  
 令和4年10月28日(金)  
 【導入法委員会・確率統計委員会・調査部】

### ●第60回研究発表大会の開催（予定）

- 令和5年2月18日(土)13:30～ 於 台東区立御徒町台東中学校
- ・指導改善に向けた大学教授等による講演会  
 演題 「全国学力・学習状況調査を踏まえた  
 学習指導の改善・充実」  
 講師 国立教育政策研究所 学力調査官 伊吹 竜二 先生
  - ・領域等における指導改善の実践と研究成果の発表  
 【調査部及び研究部7委員会】

#### 《各委員会及び、調査部の発表テーマ》

教育課程	主体的・対話的で深い学びを追求した授業作り ～操作的活動を取り入れた角の和を求める学習（2年次）～
確率統計	ICTを活用した授業
導入法	「式による説明」の指導法の提案
図形	根拠を明らかにして説明する力を身に付けさせる図形指導
関数	第2学年 変化の割合の概念・意味の理解 ～関数の「変化の割合が一定」とみなす活動を通して～
評価	学習指導要領における評価の在り方について（5） ～「主体的に学習に取り組む態度」の観点についての具体的な実践例（2）～
数式	主体的に学習に取り組む態度を育成する指導の工夫
調査部	「数学科指導に関する実態調査」の結果の分析・考察・報告

### ●その他の活動

- ・講演会、研究部活動、地区活動の報告をまとめた会報誌及び  
 研究発表集録の発行 【広報部】
- ・都内公立全中学校対象「数学科指導に関する実態調査」の実施  
 及び結果の分析・考察・報告 【調査部】

### III 令和4年度 数学指導技術向上研修会について（報告）

#### ●取組の内容

受講生と助言者（本会役員及び委員会所属委員）の対面による集合型研修（2年ぶり）で、受講生を事前アンケートから指導領域ごとに14の班に編成し、班ごとに受講者が持参した指導案について、協議・検討後、助言者からの指導・助言を行った。

●成果

◎集合型研修による成果

○受講者が持参する指導案がほぼ同領域となる小グループの編成により、受講生同士の活発な意見交換が実現

○小グループの分科会で指導案の形式、教材観、評価計画や本時の展開など、幅広く丁寧な指導・助言を実施

○分科会後の全体会での講師からの実りある指導・助言内容

- ・単元の目標設定の重要性
- ・単元目標や評価規準の設定は、数学科学年目標がベース
- ・学習指導案は本時目標・評価・まとめを意識し、生徒の反応、教師の発問等を中心に作成
- ・小学校・高等学校の学習内容を確認し、中学校の取扱いを考慮
- ・習熟度、ICT、個別最適化の考慮
- ・ICT を用いる活動例
- ・思考が整理できる板書
- ・振り返りの観点を生徒へ提示
- ・3 観点での指導と評価
- ・問題解決型学習の中に評価場面を設定
- ・具体的指導例と評価の視点
- ・小單元ごとに指導と評価を計画
- ・「主体的に学習に取り組む態度」における「粘り強く学習に取り組む側面」と「自ら学習を調整しようとする側面」の意味
- ・「誰にでも意味が分かる」「できそうで難しい」「解く価値がある」等が評価課題には必要な要素

◎受講生アンケートからわかる成果

- 以下のような肯定的感想が多数寄せられた。
- ・とても深く学ぶことができた。今後の授業に活かしていく。
  - ・グループ人数も少なく指導案について細かく指導していただいた。
  - ・自身の授業を見直す機会となった。
  - ・協議を通して課題がより明確になった。
  - ・他の受講者の模擬授業から様々な授業アイデアを得られた。 等

●課題

- ◎指導案の形式等が様々で、受講生の授業力や課題意識も捉えにくく、助言の内容に配慮を要した。
- ◎研究員や開発委員による発表も研修会に盛込み、学ぶ機会をつくれなからい。
- ◎一日研修とすることで、小グループの受講生の数を増やし、受講生同士の協議、交流を増やせないか。 等



助言者と一緒に受講者と受講者の指導案を協議・検討している場面



小グループで指導案の協議・検討後に、助言者から指導・助言を受けている様子

<連絡先>

団体名		東京都中学校数学教育研究会
代表者	所属	台東区立御徒町台東中学校
	職 氏名	校長 福沢 俊之
	連絡先	03-3831-3787
事務局	所属	荒川区立第七中学校
	職 氏名	校長 奥秋 直人
	連絡先	03-3894-6623

## 研究主題 主体的・創造的に表現・鑑賞し、音楽文化の理解を深める授業を目指して

### ～副主題 創作の授業における指導と評価の一体化の工夫～

#### I 東京都中学校音楽教育研究会とは

東京都中学校音楽教育研究会（以下都中音研）は、東京都内すべての公立中学校の音楽科教員と、一部国立、私立の音楽科が所属している研究団体です。事業として

- ・授業研究部
- ・事業運営部 専門研修事業部  
合唱事業部  
創作事業部

吹奏楽事業部（東京都中学校吹奏楽連盟）

があります。授業研究部は研究全般を推進し、事業運営部は各部が連携を図りながら特色ある研修を企画・立案・運営しています。

授業研究部では、研究主題にある「音楽文化の理解を深める授業」について、授業の提案を行っております。月1回程度開催の部会には、次の地区から構成された部員を中心に、全都からも参加者がおり研究を進めています。

港区、新宿区、文京区、墨田区、葛飾区、大田区、荒川区、  
足立区、江戸川区、杉並区、世田谷区  
三鷹市、西東京市、府中市、八王子市、町田市、西多摩、都立学校、私立学校

毎年2月に研究授業と実践発表をしています。

#### II 研究の内容

今年度は、個人学習用端末を使った旋律創作の授業を開発しています。具体的には

- ◎学習指導案と学習プリントの作成
- ◎評価の具体

を作成・検討し、2月に研究発表を行います。特に評価の具体については、授業研究部員が自校で検証授業を行い、生徒の作品を持ち寄って検討を行っています。

また、毎年専門研修事業部と連携を取り、研究内容に沿った研修を開催し、全都の音楽科教員と共有しています。

##### 【専門研修】

個人用学習端末に対応した、ボーカロイドで作曲をするアプリの使用の仕方を学び、実践を行いました。



##### 【研究の指導】

元東京学芸大学准教授・石上則子先生より、御講義・御指導をいただいています。

8月の授業研究部会では、小学校の音楽づくりの実際と、小中の学習内容の連携について御講義いただきました。また、模擬授業にもご参加いただき、研究が深まりました。

### Ⅲ 研究方法と研究計画

授業研究部では、次の研究方法と研究計画を基に、密に計画を立てて実行しています。成果は、毎年の研究発表会で発表します。

#### 【研究方法】

- ・学習指導案と学習プリントの立案と検討
- ・専門研修による実技研修
- ・部員による検証授業
- ・検証授業内の部員による観察
- ・検証授業により作成された生徒作品の評価検討

#### 【研究計画】

- 4月 研究のテーマと学習内容や対象学年の設定
- 5月 研究テーマに沿った学習指導案作成
- 6月 学習指導案検討
- 7月 学習指導案と学習プリントの検討
- 8月 専門研修  
大学教授などの御講義、御指導  
模擬授業①
- 9月 学習指導案と学習プリント検討・完成
- 10月 各学校での検証授業開始
- 11月 検証授業と講師による指導・講評
- 12月 評価の検討
- 1月 研究冊子完成
- 2月 **【研究発表会】研究授業と指導・講評**
- 3月 研究の成果と課題、次年度へ向けて講師による指導

### Ⅳ 実践事例

毎年成果物として毎年研究成果と研究授業の学習指導案、学習プリント、評価の具体などを載せて研究冊子を作成しています。

過去の事例は

- ・声部の役割を理解して合唱する授業
- ・声部の役割を理解して合奏する授業
- ・歌唱と鑑賞を関連させた授業
- ・旋律創作の授業
- ・世界の諸民族の音楽を鑑賞する授業
- ・日本の民謡を鑑賞する授業



などがあります。学習指導要領の基礎研究も行い、音楽科の授業の課題を持ち寄りながら研究をすすめています。

研究部員は随時募集中ですので、興味がある方は下記まで御連絡ください。

#### <連絡先>

団体名		東京都中学校音楽教育研究会
代表者	所属	葛飾区立大道中学校
	職 氏名	校長 角 康宏
	連絡先	03-3693-3350
事務局	所属	港区立三田中学校
	職 氏名	主幹教諭 砂子 美由紀
	連絡先	03-5441-7348

よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて  
研究主題 生活を工夫し創造する生徒の育成をめざす技術・家庭科教育  
～問題を見極め課題を設定し解決する学習とその評価～

I 本研究会の概要

研究部、総務部、事業部で組織され、研究部では各領域内容の研究を通して、また、総務部、事業部ではものづくり競技会や作品展の企画・運営を通し、教員の資質向上を目指している。

II 本研究会の研究・事業等の基本方針

- (1) 新学習指導要領が全面実施されたことを踏まえ、技術・家庭科で養うべき資質・能力と3学年間を見通した学習過程との関連を図ること。
- (2) 「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」をバランスよく育成することを踏まえつつ、「協働して作業する能力」と「主体性」を育てる指導方法を工夫すること。
- (3) 「見方・考え方」を働かせ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図ること。
- (4) 研究活動を通して、各部や各地域の研究活動の充実と人材育成を図ること。
- (5) 研究活動において、東京都内をはじめ近郊の大学と連携し、これまでの全国大会・関東甲信越大会の成果をもとに、さらなる研究の推進を行うこと。

III 研究主題設定の理由

本研究会では、生徒が社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性等や協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等、技術や生活の営みに係る「見方・考え方」におけるものの捉え方や着目するポイントなどを用いて、よりよい生活や持続可能な社会の実現に向けて問題を見極めること、見極めた問題について「見方・考え方の視点」を用いて課題を設定すること、設定した課題を解決できることなど、見方・考え方を働かせる学習題材を工夫するとともに、問題を見極め、課題を設定し解決する学習を3年間を見通して計画的に繰り返すことで、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて生活を工夫し創造する生徒が育成できるであろう。さらに、学習指導と学習評価の方法を明らかにすることができれば、子供の学びを質的に高め、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて生活を工夫し、創造する資質・能力を育成することができると考え、研究の主題を設定し、研究を進めた。

#### IV 研究体制

本教科の技術、家庭両分野の各内容の構成に基づき、次の8つの専門研究委員会を組織し、研究を実施した。

- ①「材料と加工の技術」                      ②「生物育成の技術」
- ③「エネルギー変換の技術」              ④「情報の技術」
- ⑤「家族・家庭生活」                      ⑥-1「食の生活」
- ⑥-2「衣住の生活」                      ⑦「消費生活・環境」

#### V 研究内容等

各研究委員会の研究内容等は次のとおり。最新情報及び詳細な内容については、本研究会 Web サイトを参照されたい。(東京都中学校技術・家庭科研究会 <http://ajgika.ne.jp/~tokyo/> )

- ① イノベーションにつながる問題発見・課題解決学習  
～学校の机を使いやすくできる製品開発を通して～
- ② 生物育成の技術と生活との関わりを理解し持続可能な社会の構築をめざす生徒の育成  
～独自の課題によるダイコンの袋栽培を通して～
- ③ 持続可能な社会の実現を目指し、主体的に技術を工夫し創造することができる生徒の育成  
～モデル製作による問題解決学習を通して～
- ④ 持続可能な社会の実現に向けてよりよい社会の作り手を育てる情報の技術の指導
- ⑤ よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、家族や地域の人々と協働し、よりよい家庭生活を営もうとする生徒の育成  
～問題を見極め課題を設定し解決する学習活動を通して～

- ⑥-1 よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて健康で豊かな食生活を実践しようとする生徒の育成  
～問題を見極め課題を設定し解決する学習活動を通して～
- ⑥-2 よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて衣生活、住生活を工夫し創造する生徒の育成  
～問題を見極め課題を設定し解決する学習活動を通して～
- ⑦ よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、自立した消費者として責任ある消費行動のとれる生徒の育成  
～問題を見極め課題を設定し解決する学習活動を通して～

#### VI 主な事業等

- 夏季実技研修会
- ものづくりフェア in TOKYO
- ものづくりフェア全国大会 関東甲信越地区予選
- 全国中学生創造ものづくり教育フェア

#### <連絡先>

団体名		東京都中学校技術・家庭科研究会
代表者	所属	台東区立浅草中学校
	職 氏名	校長 瀬川 真也
	連絡先	03-3866-5169
事務局	所属	目黒区立第十一中学校
	職 氏名	校長 田井 俊行
	連絡先	03-3718-6506

## 研究主題 グローバル化に対応した英語教育の実践

### 団体の概要

本研究会は、次の行動目標の下、東京都の中学校英語教育のなお一層の充実と発展を目指して活動するものである。

- ◇ 有能な人材を発掘し、リーダー層の育成を図るとともに、英語教員全体の資質向上を目途とした研修事業を実施する。
- ◇ 英語教育に関わる調査活動を行うとともに、英語教育に関わる今日的かつ実践的な課題についての研究活動を行う。

### 研究の内容

各種研修会の開催

#### 1 研究部（オンライン）研修会

8月1日、4日実施。第1回170名、第2回150名が参加。「パフォーマンステストと指導」「即興で話す力の育成」「主体的に学習に取り組む態度の育成」等について研修を行った。

#### 2 調査部（集合）研修会

8月23日実施。問題作りにおける目的・場面・状況の設定の必然性、読むことの指導と評価の流れ等について研修を行った。

#### 3 事業部（集合・オンライン）研修会

8月19日実施。「中学校英語スピーキングテスト(ESAT-J)」の活用について研修を行った。

#### 4 プロジェクトチーム部（オンライン）研修会

8月22日実施。「指導場面に応じた音読指導」について研修を行った。

### その他の活動

- 1 出版部 10 月「都中英研だより」にて研究の概要を紹介
- 2 全英連、関東ブロック英語教育研究会、大都市公立中学校英語教育研究会と連携し、研究の情報交換
- 3 事業部担当「第 75 回英語学芸大会」の実施  
多様な発表形態を研究し、オンラインと集合の 2 大会を開催した。

### 研究の成果と課題

- 集合・オンラインの複合により、各部の研修会を充実させることができた。
- 集合・オンラインの 2 形式で「英語学芸大会」を開催することができた。
- 現学習指導要領に基づく指導と評価の研修会を更に充実させる。
- 特に若手教員の英語授業力を向上させる。

### 今後の活動予定

- ・ 研究部の研究発表（2 月）
- ・ プロジェクトチーム部の研究発表（2 月）
- ・ 事業部の授業力アップ研修
- ・ 調査部の「コミュニケーションテスト」作成
- ・ 機関誌「中英研会報」の発行（3 月）

### <連絡先>

団体名		東京都中学校英語教育研究会
代表者	所属	葛飾区立新宿中学校
	職 氏名	校長 遠藤 哲也
	連絡先	03-3607-6201
事務局	所属	葛飾区立金町中学校
	職 氏名	校長 板垣 繁
	連絡先	03-3607-2575

## 研究主題 教科の特質を生かしつつ、これからの時代に対応する道德科の指導の工夫

### I 団体の概要

東京都内公立中学校の教員で構成する、中学校道德教育の研究とその実践を進めることを目的にした研究会です。

道德教育の研修及び研究の充実を図り、教師一人一人の道德教育に対する認識と指導力の向上に努め、会員相互の連絡・親睦を深めることなどを目標に、研究会の開催と参加、教育資料の収集と交換、内外の道德教育の研究・調査、道德教育実践の成果の発表などの事業に取り組んでいます。

本会は、研究部、広報部、庶務部、会計部で構成しています。

### II 研究会の活動

- 1 定期総会（5月）
  - ・前年度活動の報告、本年度活動計画の承認など
  - ・オンラインと対面のハイブリッドで開催
- 2 第1回 部員総会・研修会（6月）
  - ・全国大会と関東甲信越大会で発表する内容について報告
  - ・実践女子大学 福田鉄雄先生の指導と講評
  - ・2回目は1月に実施 指導教諭の実践報告を予定
- 3 研究部会（毎月）
  - ・全国大会、関東甲信越大会での研究発表に向けた協議
  - ・ICTの活用、SDGsの教材化、発問・板書・評価など課題の研究
  - ・都内全公立中学校を対象としたアンケート調査の実施

### III 全国大会での発表

研究主題「道德教育を推進する指導体制のあり方」

全国大会では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大など先行き不透明な予測困難な時代においても、道德科の内容は、「教師と生徒が人間としてのよりよい生き方を追求しながら、共に考え、共に語り合い、その実行に努める」ための共通の課題であるとし、「校内において道德科の充実のための組織的・計画的・継続的なOJT体制を構築することで、教師一人一人の指導力を向上させ、道德教育のより一層の推進を図る。」というねらいをたて、研究を進めた結果を報告しました。

#### 2 実践

OJTの体制構築として「管理職のマネジメントによるOJT」、「個別に実施するOJT」、「集団で実施するOJT」という3つの視点で発表を行い、道德通信や、外部講師を招いての研修、授業メモの活用、模範授業の文字起こしなど、様々な実践を提案しました。

#### 3 成果と課題

本研究の実践を通して、教師の授業に対する不安感の払拭、生徒の学習意欲の向上が挙げられました。

また、別葉の活用や、より指導力の向上を目指したOJT体制の構築などの課題もあります。異動により教員が代わっても指導体制が根付いていくように研究を続けていきます。

#### IV 関東甲信越ブロックでの発表

##### 研究主題「考えを可視化する道徳科の授業の工夫」

ICTを活用した意見の共有による効果についての研究です。  
 全員の意見を可視化し、生徒それぞれが確認する時間をつくり、それをもとに授業を行うことで、生徒の多面的・多角的な見方がより広がり、深い学びにつながるのではないかという仮説をたてました。そして、全員の意見を可視化するためのICTの使用  
 方法の研究と、どの発問で、全員の意見の可視化を行うことが、生徒の考えを深めることができるのか、授業内でさまざまなパターンで実践し、検証しました。  
 まず、代表的なアプリについて、その利用場面（用途）や利用方法を比較、整理し、全員の意見の共有に適したものを探りました。  
 次に、「ローテーション道徳」を活用して、全員の意見共有を中心発問で行った場合と中心発問以外で行った場合の比較や、すべての発問で全員の意見共有を行った場合とすべての発問で行わなかった場合の比較など、クラスを変えながら実践しました。  
 今回の研究の成果として、教員が、目的に応じた用途や、アプリやソフト、ICT機器の特徴などをしっかりと把握し、自己の授業構想に応じて、意見の共有の場面などで活用することで、生徒が物事を広い視野に立って、多面的・多角的に考えるツールとして役立つことと、ICTを活用して全員の意見の共有を行う場合も、どの発問で行うかを授業のねらいや教材を十分に吟味し、教員の補助発問や切り返しの発問を効果的に組み合わせることで、より深い学びにつながることを挙げています。  
 今後の課題として、今後も更なるアプリの情報収集と、誰にでも使いやすい用途や活用方法の研究の継続と、「共有」の定義や、なにをもって効果とするのか、異なるクラスで行った授業検証に客観性があるといえるのか、という評価尺度についても研究を深めていきたいと思ひます。

#### V 部員総会・研修会 研究発表大会（予定）

##### 1 第2回 部員総会・研修会

日時：令和5年1月20日（金）午後2時30分  
 場所：中野サンプラザ  
 内容：指導教諭等による実践発表、関東甲信越ブロックでの発表  
 指導講評：東京都教職員研修センター研究部 授業力向上課  
 教授 森岡 耕平 先生

##### 2 東京都中学校道徳教育研究会研究発表大会 公開研究授業

日時：令和5年2月7日（火）午後1時30分  
 場所：多摩市立聖ヶ丘中学校  
 オンラインでも発信いたします。  
 講演：文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官  
 国立教育研究所教育課程研究センター研究開発部  
 教育課程調査官 飯塚 秀彦 先生

#### <連絡先>

団体名		東京都中学校道徳教育研究会
代表者	所属	世田谷区立桜丘中学校
	職 氏名	校長 加藤 敏久
	連絡先	03-3429-6203
事務局	所属	調布市立第四中学校
	職 氏名	校長 生野 まゆみ
	連絡先	03-3308-1175

# 研究主題 男女共習によるハンドボールの指導方法の工夫

## ～ゲーム中の基本となる動きから誰もが楽しいと思える授業づくり～

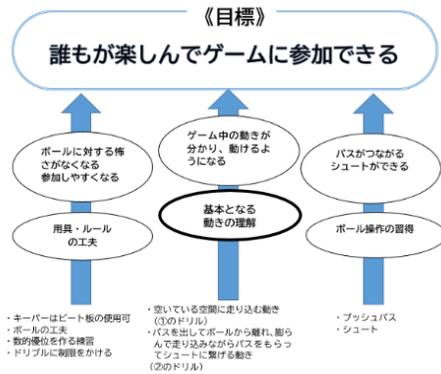
### I 研究のねらい

東京都中学校体育連盟研究委員会では、生徒の「分かる」「できる」が運動意欲の向上につながるかと考え、運動のコツや体の動かし方等の「基本となる動き」の研究に取り組んでいる。

本研究では、運動があまり得意ではない生徒がもっと楽しく授業に参加できないかという思いから、「男女共習における誰もが楽しいと思える授業づくり」について考えることとした。

男女共習について、指導する現場では、性差による接触プレイの難しさや、発達段階における体力差がクローズアップされ、否定的な意見が多かった。男女問わず誰もが楽しいと思える授業づくりのためには、ボールへの恐怖心を和らげることやゲームへ関わられるようにゲーム中に動けるようにすることが必要であると考えた。

そこで、授業で扱う用具やゲーム等のルールを工夫すること、個人技能として「基本となるボール操作」、集団技能として「ゲーム中の基本となる動き」を理解、習得させることを研究のねらいとし、誰もが楽しいと思える授業づくりを進めることとした。



### II 研究の概要

- (1) 指導計画の作成
- (2) ゲーム中の基本となる動きの明確化
- (3) 男女共習で誰もが楽しく授業に参加するための工夫

### III 研究の実践

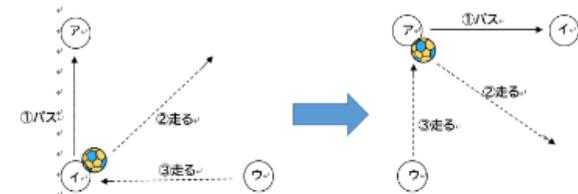
#### (1) 指導計画の作成

ゲーム中の基本となる動きを身に付けるための動きづくりドリルを帯で実施すること、ゲームを技能別チームで実施する場面を設けることをポイントとした。(3年次)

	1	2	3	4	5	6	7	8
チーム	男女混合のチーム					いけいけチーム のんびりチームに分かれる		
ねらい	空いている空間を見付け、走る力を身に付ける。	パスをして離れる、ということを身に付ける。	ゲーム中の動き作りドリルの「動き方」からシュートに繋げる。	簡単なゲームを数的優位でおこなひ、実践的な動きに繋げる。	ゲームを楽しみながら、試合で空いている空間を作り出す動きを実践する。	ゲーム間の作戦会議でチームの課題を見付け、積極的に意見を出し合う。		
学習内容	整列・準備運動・補強運動・挨拶・ねらいの説明・ボールを持ってランニング ポールハンドリング・パス (ボール操作)							
活動	動きづくりドリル①	動きづくりドリル①	動きづくりドリル①	動きづくりドリル①	動きづくりドリル①	ランニング⇒パス⇒シュート		
	①を活用して30秒パスゲーム					ゲーム		
	動きづくりドリル②	動きづくりドリル②	動きづくりドリル②	動きづくりドリル②	動きづくりドリル②	作戦会議		
	ゲーム・簡易ゲーム	ゲーム	ゲーム	ゲーム	ゲーム	ゲーム		
	シュート練習 ・四隅を狙ったシュート ・ジャンプシュート							
	整理体操・まとめ・振り返り・次の時間の予定など							

#### (2) ゲーム中の基本となる動きの明確化 (動きづくりドリル)

- ① 空いている空間に走り込む動き



② ボールから離れる動き

※パス回しのための練習

になってしまい、③の  
ドリルを考案した。

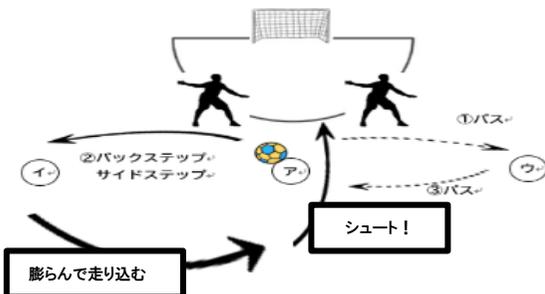


③ 膨らんで走り込みながら

シュートにつなげる動き

※ゴールへの体の向きを

意識させる。



(3) 男女共習でも誰もが楽しく授業に参加するための工夫

① 操作しやすいプッシュパスの導入 パススピードが遅くない、コントロールが安定

② 用具、ルールの工夫



【ボールについて】

0号球使用：小さく、握りやすい、柔らかい ⇒ 恐怖心緩和、パス回し重視

1号球使用：ドリブル対応 ⇒ ドリブルでシュートチャンスつくる、相手をかわす

【ビート板使用】

ボールへの恐怖心を取り除くために「GKはビート板を使用してもよい」こととした。

【ルールの工夫】

- ・パス回し重視するため「ドリブルなし」とした。途中から「1ドリブル可」
- ・ゲームの参加人数を少なくした。攻撃の際は、数的優位になる場面をつくった。

③ チーム決めの工夫

- ・ゴール型球技経験者を均等に分けて、男女混合によるチームを編制した。
- ・技能別チームによるゲームを行った。(チームは時間ごとに生徒の希望により選択)

#### IV 研究のまとめ

(1) 成果

- 基本となる動きの明確化 ⇒ ゲーム中にボールから離れることができた  
(動きづくりドリルの導入) ⇒ ゲーム中にどこへ動けばいいかわかった  
⇒ 積極的にゲームに参加できるようになった

○ いけいけチーム、のんびりチームでのゲーム (技能別チーム)

「同じレベルの人とゲームができて楽しかった」「思いきりプレイできた」

「いつもよりボールが回ってきた」「速いボールがなく、怖くなかった」

○ 運動があまり得意ではない生徒の「取り残され感」がなくなった

(2) 課題

○ シュートへ向かわせる意識 ⇒ シュート練習から始める

○ 技能レベルに応じたチーム編成 ⇒ ハンドボールの特性に触れさせる

○ 共生の視点を踏まえての授業づくりの難しさ ⇒ 思春期特有の異性への意識

○ 単元の目標や授業のねらいの明確化 ⇒ ハンドボールを教えるのではなく、  
ハンドボールで何を教えるのか

#### <連絡先>

団体名		東京都中学校体育連盟
代表者	所属	世田谷区立桜木中学校
	職氏名	校長 大塚 洋一
	連絡先	03-3420-0149
事務局	所属	東京都中学校体育連盟事務局
	職氏名	事務局長 佐藤 俊治
	連絡先	03-5615-9517